

柴田勝治著

竹野郡郷土誌

發賣元 網野活版所



025526-000-2

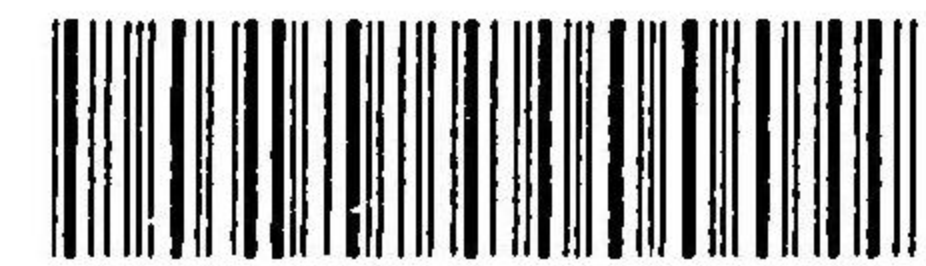
特15-43

竹野郡郷土誌

柴田 勝治/著

M36

ADC-3014



◎身のまもり

著 書

ひとのひかり

ひとのたから

ひとのさいわい

(その一)

(その二)

(その三)

つごめてやれよよきことを

くるくくるやくるくど

ひとどうまれてさいわいの

よきことねほきこともこそ

めぐるくるまのかぎぐるま

なかでいちばんさいわいは

きみにちゆーなれわやにこー

くるまはもさにかへれども

びよーきをせぬがだいいちよ

ひとにはめられそやさるゝ

かへることなきこのつきい

たれがびよーきをすくものぞ

(その二)

(その二)

(その三)

ひとたびやつたあやまちも

ツドンとうつたてつばーの

びよさせぬよーねがふなら

なをせばもとのよきひとよ

たまはふたゝびかへらない

くちをつゝしめあさばんに

くもれるたまもひがきては

さきのうつるもそのこをり

くちはびよーきのもんなるぞ

もとのひかりけあるものを

をしみてまなべもろともに

かたくつゝしめもろともに

例

○此書は著者が口ずかすを輯めて一冊子とし我竹野郡郷土地理歴史の一斑を知るに便したのである。

○郷土誌を談ずるときは此書を骨に、肉をつけて語れば面白くして記憶を助けるであらう。

○新体詩は自由の口調を以て吟すればよい又或る樂譜に合して歌つてもよい。

ねあがりの松に五色のいと掛津

ねあがりの松に五色のいと掛津



(一)

◎身のまもり

音 三

ひとのひかり

ひとのたから

ひとのさいわい

(この一)

(この一)

(この一)

つとめてやれよきことを

くるくくるやくるくど

ひとどうまれてさいわいの

よきことねほきことこそ

めぐるくるまのかぎぐるま

なかでいちばんさいわいは

きみにちゆーなれたやにこー

くるまはもさにかへれども

びよーきをせぬがだいいちよ

ひとにはめられさやさる、

かへることなきこのつきい

たれがびよーきをすくものぞ

(この二)

(この二)

(この二)

ひとたびやつたあやまちも

ツドンさうつたてつほーの

びよせぬよーねがふなら

なをせばもとのよきひとよ

たまはふた、びかへらない

くちをつ、しめあさばんに

くもれるたまもみがきでは

さきのうつるもこのこをり

くちはびよーきのもんなるぞ

もとのひかりけあるものを

をしみてまなべもろどもに

かたくつ、しめもろどもに

○凡

例

○此書は著者が口ずさむびを輯めて一冊子とし我竹野郡郷土地理歴史の一斑を知るに便したのである。

尾

○郷土誌を談するには此書を骨に、肉をつけて語れば面白くして記憶を助けるであらふ

○新体詩は自由の口調を以て吟すればよい又或る楽譜に合して歌つてもよい

例

ねあがりの松に五色のいと掛津

琴ひき遊ぶ三津の浦

幽 齊



(一)

(二)

目次

○ 緒言	一頁
○ 網野見物	三
○ 西海岸めぐり温泉行き	七
○ 城島海水浴竹野詣り	十一
○ 吉野山紅葉狩經ヶ脚燈臺見物	十四

目

次

竹野郡郷土誌

柴田勝治著

緒

緒言

古くさかのほつて考へれば和銅六年に丹波の五郡を割きて丹後國を置かれた、づうと下つて建武九年一色範氏が當國の守護となり天正年間細川藤高一色氏をにぼして之に代る、慶長五年子忠興封を但馬の豊岡に移し、京極高知の所領となる、地を三子に分ち田邊宮津峰山に分封す後久美濱縣に屬し更に豊岡縣に併せ明治九年之を廢して京都府管下となる、與謝、中、熊野の三郡を負ひて府下の北端に位すれども一帯日本海に面し氣候割合に溫和、よく農業漁業に適し生業裕かに産物も尠なからず今一町十五ヶ村あり

言

(一)

○ 網野見物

諸子よ學ぶ時によく學び遊ぶ時によく遊ぶでなければ大きうまつてゑらい者にはなれん、けふはよい天氣だから諸子と一しよに網野町を見物しよう、諸子も知つて居る通り此町は郡内第一の賑かな處である、郡役所あり、警察署あり登記役所あり、其外郵便局銀行なぞ皆揃つてあり、學校も大きい寺も二ヶ寺、それから基督教會もある、此町は今戸數は四百に足りないが隣りの淺茂川村と合併することになつて居るから、そ
うなつたら戸數も凡八百人口も四千位になるであらう、町の人は縮緬業と商業と農業とであるが中で縮緬業と商業は仲々盛である、昔關ヶ原の役の勇士澤田治郎介を出した處である、名所には亭子山招魂碑八町濱がある

網野見物

日本海の濱邊なる	景色のどかに風清し
網野の町は昔より	東に高き愛宕山
竹野郡の都邑にて	西に聳ゆる高天山

(四)

網野見物

北は清國滿州を
前に控へて西北は
朝鮮國の元山を
はるかに望む網野浦
南は青田ひろく
遠くつらなるそが中に
清き流れの福田川
そひて走るや沖田街道
春の眺めは桃山の
花の色香はたぐひなく
八町濱の松露狩
歸るを忘る面白さ
夏は福田の橋の上に

螢狩りやら夕涼み
すさぶ嵐にのりゆかた
暑さを忘れ心地よし
網野繩手の秋の暮
歩みつくせば七面山
萩の下風露ちりて
袂つめたし月の影
かすかにひやく入栢の
鐘は下岡松泉寺
たゞさね寂しき月空に
哀れはいとゞまざるなり
雪の景色は妙見堂
外に名高き招魂碑

(五)

網野見物

國に駭れし武夫の
魂祀る塚なる
四季の眺めの其外に
名所舊跡亦多し
町の東に築きたてる
車の塚の御陵は
畏れたるも宇多帝の
御靈を鎮めたてまつる
あやに尊き丘なる
世に傳はりて名も高し
これにちなみて北側の
麓にたてる祠こそ
寛平法皇と稱へられ

帝を祀る宮ときく
殿宇小さく荒れたれど
御威徳たかくかしけれ
そばに茂ひたつしわ榎の木
ながき齡の棟梁と
世に謳はれし浦島が
しわをなげたる木々とかや
山根の丘の本覺寺
たかき御堂のその中に
古今稀なる大丈夫の
はまれも高き清正公
松の縁ともろとも
のぬさははいつまでも
亭子の山の麓には

郡衙警察いかめしく
 新あらたに建ちて一入ひとの
 景をそへけり新道しんみちに
 町の最中もなかつに町役場
 會社銀行なみたてり
 四ツの辻には電信と
 郵便局は便利よし
 下路しもぢの町に來て見れば
 大師堂だいしどうやら心月寺しんげつじ
 御堂みどうのはとりいと廣く
 千草ちぐさにすだく虫むしの聲
 住吉神社すけよしんじ其西に
 底筒そこづつ中筒なかつづつ表筒うわづつ男おとこの

三柱みつはしらの神鎮かみまりて
 此町このまち人の氏神うぢがみを
 宮居みやゐ神さびいと古りて
 境内さかいうち廣く樹茂しゆみり
 小鳥こどり囀さえずり蝶舞てふぶふて
 此町このまち一の樂園がくえんを
 學まなびの園わこゝにあり
 幾いく百ひゃく數すうのうなゐら
 袖そでふりあはてつとふ様さま
 末すえたのもしく愛あいらし
 さかぬめでたき此町このまちは
 人口じんぐう一千六百余
 家數けすう凡およそ四百あり

商工業は盛さかんに
 世よにも知られて名の高たかき
 丹後縮緬たんごしゆんべんそれこそは

昔むかしも今いまも此土地このちを
 原産地げんさんちと認まめらる

○西海岸めぐり温泉行き

網野町の西にいて淺茂川戸數は二百五十郡中第一の商港である、南みなみに湖うみを抱いだいて
 北きたは外海そとうみ此頃築港ちくこうの最中である、出來上れば丹後で指折りせらるゝ商業地になるであ
 らう、名所は湖のへりの正徳院しやうとくゐんで景色のよいのが福島である、峠とうげをこして磯いそに行かう
 戸數は六十漁村いさなむらであるが、名高く傳へられて居るのは靜御前の世を終つたといふ地で
 今その社がある、名物の甘藷かんじゆでもたべて鹽江しほゑ、濱詰はまづめに行かう、途中五色濱ごしきはまは五色の小
 石か散り布き夕日ヶ浦は其名の通り夕日ゆふひがよい御來屋神社みくるや、福壽院ふくじゆゐんの眺みまた仲々よい
 、戸數は二百許り大抵漁業である鰯いわし、鯿かれいの漁最も多い、これから僅か半里で木津村に

(八)

着く夏は下和田の温泉に浴して龍猷寺に避暑すれば甚だ妙である、家数は三百戸學校は中館、郵便局は上野にある此の村は農業が盛んで副産として竹に桃は名高い、引原峠を越えてこゝは郷村字新庄高さ十丈の大瀧がある、切畑には九瀧といつて高さ六丈のものを始めとして大小九つの瀧が連り甚だ壯觀である、郷村は戸數三百五十農業地であつて殊によい米が澤山できる、學校は字郷と切畑にあり僧行基の建立した明光寺は名高い、もうこゝからは峰山町に一里であれどけふは少々疲れたから下岡の天満宮を拜んで歸るにしよう

西海岸めぐり温泉行

網野の西に淺茂川
北には外海南には
周回一里の淺茂湖を
ひかへて限の砂の上に
二百五十の家たちて

本郡一の商港を
出舟入舟數あまた
商業日々に榮え行く
今や築港半ばにて
末の望みぞいとねまき

(九)

西海岸めぐり温泉行

倉庫會社の行末は
人もうらやむばかりなり
濱は名に負ふ淺茂濱
白き眞砂の廣々と
散り布く貝は花紅葉
松の緑と競ふなり
島は福島水無月の
風雅は繪にもねがかれし
湖水の西に望むなる
正徳院は名所なり
これより西に一里半
磯の浪風いやあらし
梢ゆらるゝ松の下に

小さき祠たちたるは
九郎判官源の
義經公の妾として
眞操高き白拍子
憂き世をかこち此土地に
わび住居せし處とて
まつられてける其人は
静ヶ御前とつたへらる
穴の脚を打ち越えて
五色の濱はせまけれど
青赤緑黄白の
色を染め出す小石原
世の寶玉を此とこに

西海岸めぐり温泉行

集めたるかとうたかはる
 鹽江を過ぎて濱詰の
 夕日が浦は入日よく
 御來屋神社景色よし
 木津の温泉龍獻寺
 共に知られて名も高し
 中館岡田あとに見て
 引原峠こねぬれば
 こゝは郷村宇新庄
 大瀑ありて十丈余
 九瀧の瀑は切畑に
 連らなり懸かる壯觀
 郷や高橋いつか過ぎ

下岡はづれの三段田
 雌雄の松は幾千代の
 契りを縁にたいねつゝ
 根元に祀る管公の
 事蹟語らんいざ來れ
 翻醒の御代の其初め
 惜くも人にそねまれて
 身になき罪をねはせられ
 遂に左遷と定まりぬ
 天に泣けども甲斐あらず
 地に叫べどもひいさなし
 涙を呑みて僻遠の
 筑紫に年を送りつゝ

身は沈めども忘れぬは
 海より深き君の恩
 くだし賜ひし御衣を

捧げてしぼる涙哉
 あはれ當時の御心を
 れもひまつれば如何ならん

城嶋海水浴竹野詣り

○城嶋海水浴竹野詣り

網野を後に小濱の離池はなれいけまわり周回一里余り水青々として深い、中に一つの景色のよい島があつて浮島といふて居る、此池から六町の隧道せんどうを通つて水が海に流れて居る、砂山を越して海邊に出れば丹後八景の一に數へらるゝ琴弾太鼓濱、砂が琴を弾き太鼓を打つとは奇妙ではないか、ついでおがら掛津の白瀧さんにも詣つて行かう、遊や三津は通り過して間人の城島に着いてゆるりと休むにせよう、こゝは風景がよく海水浴によいから常に客が絶へぬ、間人村は本郡第一の漁獵地で戸數七百網野について繁華の地だから従つて商業も盛である、銀行會社學校あり晝食もすまし疲れが直つたら竹野神社に詣

(三)

らう竹野川尻廣瀬橋の邊から向ふに眺む、一の字なりに松の並木の奥深く社が見ゆる、これが郡内第一の大社竹野神社であつて天照大神と竹野姫が祭つてゐる、少し脚をのばし筆石此代を経て名高い宇川の鮎を買ふて土産にしやふ

城嶋海水浴竹野詣り

網野を後に北の方
五町余りに小濱あり
前に眺むる離池
水底深く清らかに
中に浮べる浮島の
緑の松や島の様
手にもきくせん河魚を
入口あまた出口なく
水は屢々あふれにき

二十年前其昔
岩石穿ち山をぬき
一の隧道切り通し
水を海へとみちびきて
やめる洪水のふきたる
工事はいとゞ大事業
砂山之ゆれば掛津濱
丹後八景其一に
數へられたる名所なり

城島海水浴竹野詣り

(三)

磯の松風琴彈の
濱は琴をばかなづなり
太鼓の濱は琴の音を
したひとこそはあはすらん
落つるも清き白瀧の
水を結びて漸くに
かはける咽喉うるはしつ
眞砂ふみしめ行く先は
三津に遊か城島の
景色は外に類なく
海水浴の客多し
閩人の里はいや廣く
本郡一の漁場

夏の夕べに來て見よや
鳥賊釣り舟や鯖の舟
沖に行きかふ幾千の
漁火てらす其景は
源氏平家の兵士が
檀の浦にて戦ひし
船の戦もさながらに
かくやありしと思はるゝ
竹野の川を打ち渡り
松の繩手の奥深く
茂る木立のすき間より
石の鳥居や瑞垣の
見ゆるは竹野神社なり

(吉)

白浪かゝる屏風岩
屏風の内はものすく
昔は鬼も棲みしとか
郡中一のヶ嶽
右にのぞみて左には
鷹の巣山と犬ヶ岬
筆石此代平すぎて

宇川の口に来て見れば
小石の河原いや廣し
これぞ年々なやむなる
洪水河と知られたり
鮎は此地の名産
一籠さげて家土産よ

吉野山紅葉狩ヶ岬燈臺見物

これまでに西の海岸も東の海邊も旅行したから今日は吉野山に紅葉狩りして經ヶ岬の燈臺見物と出かけやう、路のりが遠かいら朝起きした嶋津村まできて夜明けたから人より一番かけに春日神社に詣いつた、嶋津は縮緬業が盛んで毎戸機はたの音や緞女たらしの謠聲うたごえ

吉野山紅葉狩ヶ岬燈臺見物

(吉)

吉野山紅葉狩ヶ岬燈臺見物

がもれる、一里許りで鳥取もすぎ和田野についた、こゝも縮緬業が盛んだこゝから溝谷に行く間廣い平野の中程に郡中一の竹野川が流れて居る源を中郡磯砂いさなごの麓に發し方々に灌漑かんがいして竹野に行つて海にそゞろ長さ七里益いせきの多い川である、右の方吉野村が見ゆる松茸と柿は名物であるこのへんは郡中での農業地であるから米の産額とくごうは多い、溝谷は間人宇川から峰山に通ふ要路に當つて高等小學校もあり郵便局もある、右に屹きつ立する金剛童子山に見送られて黒部に行き深田部神社や萬昌寺に詣り、成願寺に養蠶やうさく傳習所がある毎年生徒を集めて養蠶やうさくの法を教へて居る、徳光や三宅岩木などは向ふに見過して是安これやすの神宮寺に磨子親王まりこしんのうの古蹟たごじを訪れ一ヶ尾峠を越えて水清らかな宇川は郡中第二の大河名物鮎あひの産が多い、近頃此川の上流小脇こわきに炭礦たんこうが發見された今試堀しほり中である、此邊はすべて農業地であるが養蠶やうさく製糸隨分盛なもので其質もよいと聞いて居る、久僧と中濱は家續いけつきで戸數殆んど二百上下宇川の都邑で水産業が盛であり將來望がある、日本三吉野みやしのの一に數へらるゝ吉野山に吉野川九葉の紅葉錦織り出し山水相映じて實に絶景である、尾和おわと袖志そでしの間に穴の文珠もんじゆ日本三文珠の一で斷崖千仞浪打つ奥に文

(六)

吉野山紅葉狩ヶ岬燈臺見物

珠菩薩を安置す、袖志は産物多く生計裕かである、海苔に石花菜蘿蔔は著名で殊に名
牛宇川牛の本場である、いざこれから經ヶ岬燈臺山路一里半の上により明治三十年に
設けられ器械の完全なる世界比類ないとのこと直上二町の處に舞鶴軍港所管の望樓臺
は明治三十三年に設けられ軍艦の往來を記して居る

秋空高くはがらかに
小春日和の遠足は
心を洗ひ身をきたふ
今日の旅路の面白や
頃は菊月末つかた
朝露ふみて鳴津路
迎る弓手の湖水には
鳴の羽音三つ五つ

春日の社伏し拜み
行くや村内景氣よく
縮緬機業盛にて
戸毎にかよふ筏の音
中禪寺をも見たけれど
路を急げはたちよらず
はたちの松もいつかすき
行けば鳥取和田野原

(七)

吉野山紅葉狩ヶ岬燈臺見物

肥沃の平野廣々と
わりて流るゝ竹野川
源遠く磯砂の
麓に出てゝ洋々と
中と竹野を灌溉し
流域廣く益多し
右を望めば吉野村
米に松茸柿多し
前に溝谷等樂寺
郡中屈指の農地
溝谷過ぎり仰き見ば
金剛童子屹立す
井邊國久黒部小田

船木を合して深田村
深田部神社萬昌寺
ついであからに詣り行く
徳光村の成願寺
こゝに養蠶傳習所
見ればこの道學問
徳光三宅大山と
岩木吉永流し目に
着や是安神宮寺
磨子親王古蹟あり
坂路上下一里半
一ヶ尾越えてこゝ宇川
中野井の谷平とも

養蠶製糸盛なり
 小脇に炭礫見出され
 今や試掘の中にあり
 久僧中濱家ついで
 上下宇川の都邑なり
 水産業は盛にて
 行く末殊にのそみあり
 名もいと高き三吉野の
 吉野の山や吉野川
 紅葉の錦織りなせる
 名所もこゝを程さらす
 中濱あとに尾和行けば
 穴の文珠は千俵の

絶壁漣ぐ浪よする
 奥に文珠を安置せり
 名産多き袖志には
 海苔に石花菜蘿蔔よ
 殊に名牛宇川牛
 此地を本場と記し置けよ
 険しき路をたどりつゝ
 山路を上る一里半
 北の海にて三大岬
 上には燈臺設けられ
 航海船の路しるべ
 直上三町の望樓は
 日本海のかためなる

舞鶴軍港所管にて
 往來の軍艦しるさるゝ



Vertical text column on the left side of the page, likely a title or a section header.

Vertical text column on the right side of the page, likely a title or a section header.

竹野郡郷土誌附圖

町村名	神	佛	名所
網野町	網野神社	本覺寺、心月寺	亭子山、妙見寺、八町濱
淺茂川村	八日吉幡神社	正徳院、松泉寺、大林寺	正徳院、下岡城址
濱詰村	御來屋神社	福壽院	五色濱、夕日浦、靜御前
木津村	加茂園神社	萬松寺、龍猷寺	下和田温泉
郷村	大宇賀神社	明光寺、萬泉寺、青原寺、周泉寺、大慈寺	大瀑、九瀧瀑
島津村	春日瀧神社	蓮華寺、正藥寺、吉祥院、海藏寺、廣通寺	琴彈濱、太鼓濱
鳥取村	春日瀧神社	大慶寺、長明寺、西方寺	
吉野村	石宅山神社	哭法寺、雲龍寺、安養寺、徳昌寺	
溝谷村	溝谷神社	龍淵寺、萬願寺、等樂寺、生蓮寺	
深田村	深田部神社	福昌寺、禪勝寺、國久寺、地藏院	
徳光村	鹽干神社	徳運寺、成願寺、運祥寺	
八木村	丹生神社	寶藏寺、圓福寺、神宮寺	磨子親王古蹟
間人村	愛宕天神宮	龍雲寺	城島
竹野村	竹野神社	養國寺、安樂寺	竹野濱、車塚
上宇川村	八柱幡神社	常徳寺、妙源寺、禪定寺、常福寺、高禪寺、藏福寺	
下宇川村	大野神社	上山寺、明月寺、隣海寺、福聚院、松念寺、萬福寺	吉野山、穴文珠

竹野郡郷土誌重要事項一覽表

其二

柴田勝治著

竹野郡郷土誌

一部定價 金五錢

隠れたる我竹野郡の勝地未だ世人の顧みざるは實に遺憾の至りならずや、世人の顧ざるに非ず未だ曾て紹介するの皆無なるかため世人之を知らざるなり本書は文學の趣味に當める著者が韻文を以てこの詩的趣味多き勝區をうたひ出したるもの郡内を數部に分ちて拔涉し名所といはず舊跡といはず歴史に地理に關し殊に景を叙する絶妙一讀快哉を連呼せしむ、特に旅行体に叙述し其秩序整然として乱れづ教育的に寫し出されれば小學生徒諸子に携へしめ郷土に關する事項を知らしむるには尤も便益なりて興味多からん

發賣元 網野活版所

學校用文具類

今般新ニ開店各官衙學校及一般生徒諸君ノ御便宜ヲ計リ特別大勉強ヲ以テ義狹的ニ正確廉價ヲ旨トシテ御高需ニ應ズ

●各學校ノ御撰定筆墨其他文具類
ヲモ御用達仕候

京都熊谷鳩居堂特約店
網野尋常高等小學校御用達

網野活版所文具店

治三十六年十二月十日印刷
治三十六年十二月廿一日發行

活版印刷

印刷鮮明 紙質佳良
價格低廉 期日不違

竹野郡郷土誌印刷所

網野活版所

竹野郡網野町四辻角
(電信略號〇ヲ)

竹野郡郷土誌

定價金五錢

編輯兼 柴田勝治
發行人

全 百卅四戸之一寄留

印刷人 丸尾秀吉

全 郡 全 町

印刷所 網野活版所

發賣元

竹野郡網野町

網野活版所

學校用文具類

今般新三開店各官衙學校及一般生徒諸君之御便宜ヲ計リ特別大勉強

以テ義狹的ニ正確廉價ヲ旨トシ

御高需ニ應ス

各學校之御撰定筆墨其他文具類

ヲモ御用達仕候

京都熊谷鳩居堂特約店

網野尋常高等小學校御用達

網野活版所文具店

明治三十六年十二月十日印刷
明治三十六年十二月廿一日發行

活版印刷

印刷鮮明 紙質佳良

價格低廉 期日不違

竹野郡郷土誌印刷所

網野活版所

竹野郡網野町四辻角

電話略號〇三

竹野郡郷土誌

定價金五錢

編輯兼 柴田勝治
發行人

全 百廿四戸之一寄留

印刷人 丸尾秀吉

全 郡 全 町

印刷所 網野活版所

竹野郡網野町

發賣元 網野活版所

20-49

